

# ぼうさい通信 Vol.80



毎月16日は「防災教育啓発の日」

令和6年10月16日発行  
熊本県立湧心館高等学校

## 今月のテーマ

## 「秋雨前線について」

10月になりました。暑い日が続いていましたが、ようやく過ごしやすい気候になってきましたね。さて、みなさんは「秋雨」について知っていますか？天気予報などで一度は耳にしたことがある言葉だと思います。秋雨とは、8月下旬～10月にかけて降る雨のことを指し、長雨になりやすいため、「秋の長雨」や「秋霖（しゅうりん・霖は長雨の意味）」とも呼ばれています。秋雨は日本特有の気象現象で、西日本よりも東日本の方が、雨量が多くなりやすいのが特徴です。一雨ごとに夏の暑さがやわらぎ、涼しくなっていく様子に風情が感じられることから、俳句の季語や9～10月の時候のあいさつにも使われています。なお、秋の終わりから冬にかけて降る雨は「時雨（しぐれ）」と呼びます。

今回は「秋雨」に関連して「秋雨前線」について紹介します。

### ・秋雨前線のメカニズムを解説

#### 2つの気団がぶつかり発達

気温や湿度などがほぼ同じである巨大な空気の塊を「気団（きだん）」といいます。日本の近くには、次の3つの気団があります。

- ・小笠原気団（おがさわらきだん）：暖かく湿った空気
- ・オホーツク海気団：冷たく湿った空気
- ・シベリア気団：冷たく乾燥した空気

三つの気団のうち、秋雨前線に関係しているのは小笠原気団とオホーツク海気団です。小笠原気団は日本の南方の海上に現れ、夏に勢力を増します。

小笠原気団の勢力が弱まると、北側にオホーツク海気団が現れて南下してきます。このときにできる前線が、秋雨前線です。



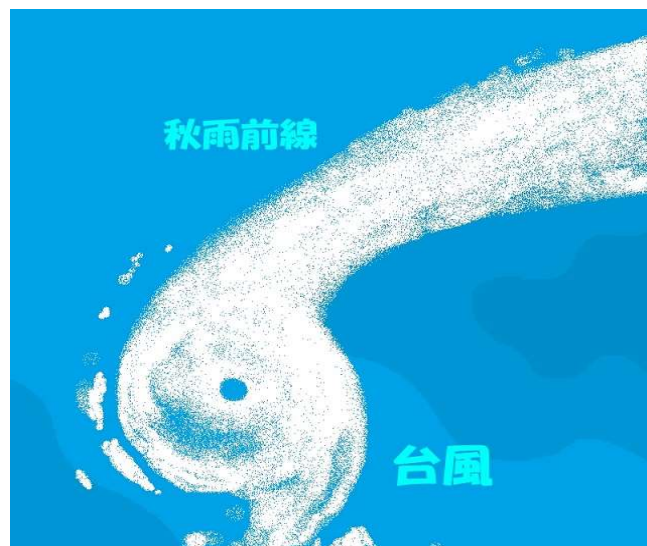
## ・台風シーズンと重なることが多い

秋雨前線は、長い間同じ位置にとどまる「停滞前線」の一つです。このため、前線の付近では雨が降りやすい状況が長期間続きます。

また、秋雨前線が発達する9～10月は、日本に台風が多く接近する時期です。台風が運んでくる、非常に暖かく湿った空気が前線にぶつかると、一層雨が降りやすくなります。

秋雨前線の近辺では、台風が遠い位置にあっても局地的な豪雨になるケースも多く、注意が必要です。

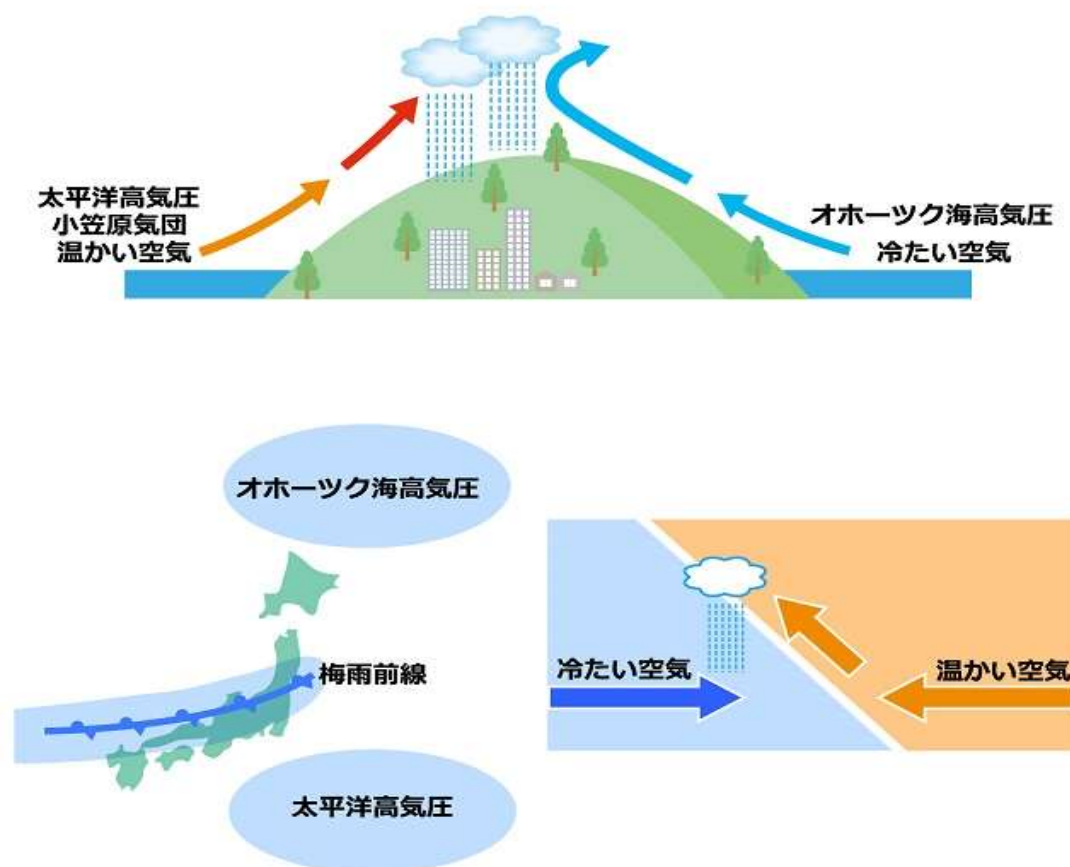
台風が近づいてきた際には、台風の進路と前線の位置を確認しておくとい良いでしょう。



## 梅雨前線との違い

梅雨前線は、季節が春から夏へと変わる5～7月に現れます。秋雨前線とは逆に、南から勢力を強めてやってくる小笠原気団が、北から張り出していたオホーツク海気団にぶつかって発生します。梅雨前線も停滞前線の一つで、秋雨前線に比べて停滞期間が長いのが特徴です。南から北へと移動するため、西日本に停滞しているときの方が活発で、雨量も多くなります。

時期的に台風の影響を受けることは少ないものの、場所によっては集中豪雨をもたらすこともあります。



【文責：定時制防災担当】

過去のぼうさい通信を見ることができます ◎ぼうさい通信(毎月16日発行)

本校HPにアクセスしてみよう。 <https://sh.higo.ed.jp/yusinkan/>

くまもとマイタイムライン(デジタル版 マイタイムライン)は、

<https://portal.bousai.pref.kumamoto.jp/timeline/#/>で作成可能です。